

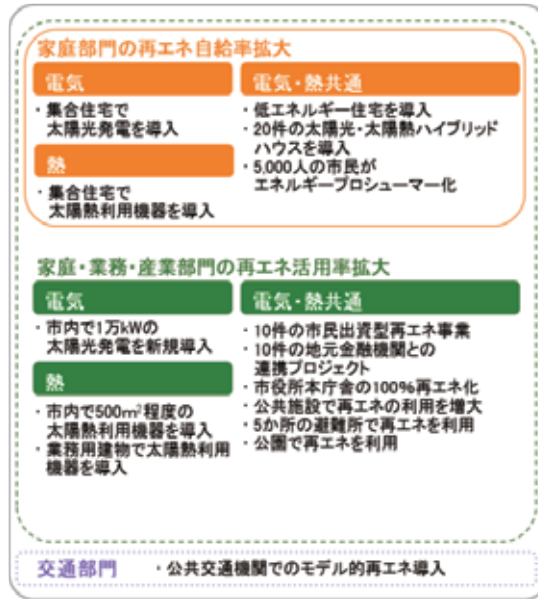
◎ビジョン対象期間での進捗状況を測る目安となるチャレンジ目標を設定

チャレンジ目標:

長期目標の各分野に対応する形で定めた、具体的かつ意欲的な目標

2020年に20個のチャレンジ目標(チャレンジ20目標)を、2030年に30個のチャレンジ目標(チャレンジ30目標)を定める。

※本編でチャレンジ30目標も掲載



人づくり・場づくり  
情報提供・環境教育

- ・5,000人の市民が宝塚エネルギーに参加
- ・10団体のNPOが再エネ関連活動展開
- ・再エネ相談窓口の相談累計実績1,000件
- ・すべての図書館・学校図書室に環境エネルギー文庫を設置
- ・環境エネルギー教育のプログラムを作成・試行

**エネルギープロシューマー**  
エネルギーの消費者であるとともに太陽光発電等での生産、再エネ事業の出資などを行う人を指し、「宝塚エネルギー」の重要な参加者です。

**エネルギー事業者**  
エネルギーを市内で生産し、若しくは市内に供給する事業を営む者又はこれから営もうとする者をいいます。(電力会社、ガス会社、PPS(新電力)など)

**地域エネルギー事業者**  
エネルギー事業者のうち、市民若しくは事業者が自ら実施し、又は主体的に関与し、再生可能エネルギーを供給する事業を営む者又はこれから営もうとする者をいいます。

◎6つのパッケージ

目標の実現に向けた施策や取組を分野ごとにまとめ、協働して進める。



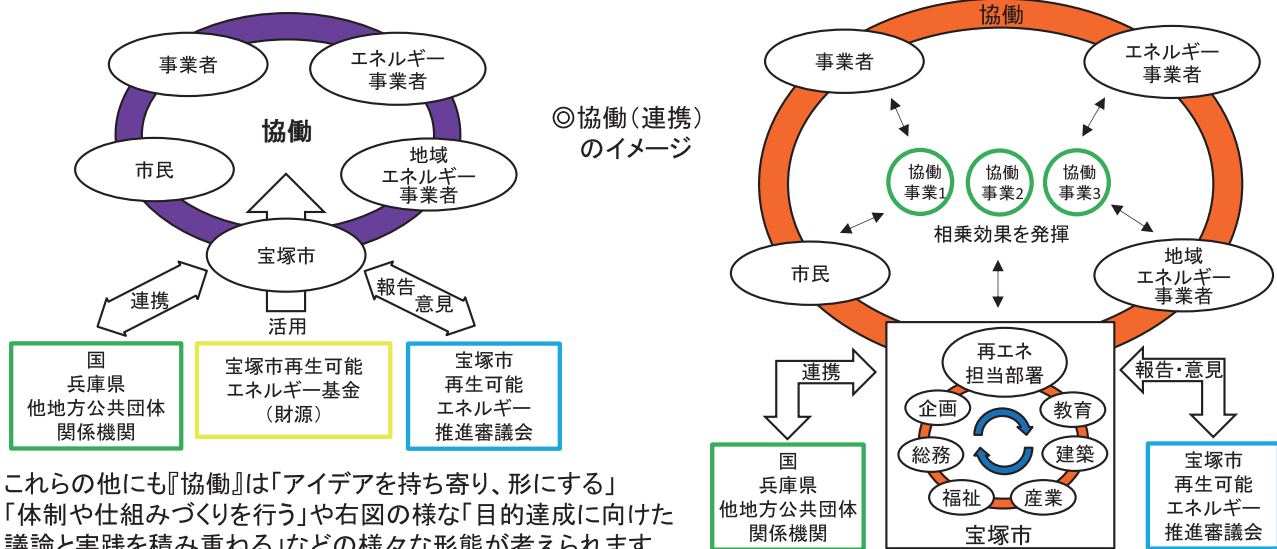
◎モデル事業の推進

長期目標及びチャレンジ目標実現に向けた施策や取組のうち、すぐに取りかかることができ、波及効果の高いと考えられる7つの取組をモデル事業として進める。

- |                         |                              |
|-------------------------|------------------------------|
| ①再エネ相談窓口の設置             | ⑤公共建築物における屋根貸しと税優遇の実施        |
| ②既築集合住宅への太陽光発電への導入支援    | ⑥公園などでの各種再エネの設置と見える化         |
| ③地元金融機関との連携による再エネ導入への支援 | ⑦移動展示による持続可能なエネルギー教育プログラムの実践 |
| ④公共交通機関の再エネ活用の促進        |                              |

協働の進め方

◎再エネの利用の推進は個々に出来るものでも行政だけで進められるものでもなく、みんなが当事者として参加し、協働していくことが重要です。



これらの他にも『協働』は「アイデアを持ち寄り、形にする」「体制や仕組みづくりを行う」や右図の様な「目的達成に向けた議論と実践を積み重ねる」などの様々な形態が考えられます。